ソフトダーツ実施動機に関する研究

Motives for participating in soft darts

1K09A226-4　保田 亮太
主査 松岡宏高 先生　　副査 武藤泰明 先生

【研究課題】

本研究における研究課題は、「ソフトダーツ実施動機に関する研究」である。

【研究の意義】

本研究における研究の意義は、「新規性が高い点」にある。ソフトダーツの実施動機について調査した研究は見当たらず、ソフトダーツの実施動機については、未だ研究されていない分野であり、本研究がその分野における第一歩になる。

【研究の問い】

本研究における研究の問いは、「ソフトダーツの実施動機には、どのようなものがあるのだろうか。」である。

【研究目的】

本研究における研究目的は、研究の問いである、「ソフトダーツの実施動機には、どのようなものがあるのだろうか。」の答えを、明らかにすることである。

【方法】

本研究では、研究目的を果たすために、質的方法を選択した。また、質的方法には様々な種類の方法論が存在するが、その中の、グラウンデッド・セオリー法(Grounded Theory）を選択した。さらに、グラウンデッド・セオリー法において、データ収集の際に用いる手法には様々な種類が存在するが、その中の、非構造化インタビューを選択した。

データ収集について、予備調査及び本調査として実施した 2 つのインタビュー調査から、データを収集した。

予備調査について、2013 年 4 月 6 日（土）に、埼玉県所沢市にあるソフトダーツ場にて、ソフトダーツ実施者 7 名に対して、インタビュー調査を実施した。

本調査について、2013 年 6 月 11 日（火）から 2013 年 6 月 18 日（火）までの 8 日間に、埼玉県所沢市にあるソフトダーツ場にて、ソフトダーツ実施者 8 名に対して、インタビュー調査を実施した。

データ分析について、コード化（初期段階のコード化と、焦点化のためのコード化)、メモ書き、理論的サンプリング、飽和、分類を、データ分析として行なった。

【結果】

ソフトダーツの実施動機には、7 種類の実施動機が存在することが明らかになった。そして、その 7 種類の実施動機とは、(1) 目標、(2) 練習、(3) 交流、(4) 楽しさ、(5) 趣味、(6) 競技、(7) 仕事、であった。

(1) 目標について、ソフトダーツ実施者は、ソフトダーツを実施する上で、自分自身の目標を設定する。そして、その目標を達成するために、ソフトダーツを実施する。ただし、全てのソフトダーツ実施者が目標を設定しているわけではない。また、ソフトダーツ実施者が設定する目標を、7 種類に分類した。その 7 種類の目標とは、(1-1) 上達、(1-2) 勝利、(1-3) 競争相手の存在、(1-4) プロ、(1-5) 自分への挑戦、(1-6) 周囲の評価、(1-7) 普及、である。

(2) 練習について、ソフトダーツ実施者は、練習のためにソフトダーツを実施することもある。ではなぜ練習をするのかというと、その答えは、目標達成に向けて、である。さらに、その目標を 4 つに分類することができた。その 4 種類の目標とは、上達するため、勝利のため、競争相手を超えるため、試合のため、である。

(3) 交流について、具体的には、人と人との交流である。ソフトダーツを実施する中では、友人・知人との交流を深めること＜ (3-1) 人と人との交流（ソフトダーツ以外）＞もあれば、ソフトダーツを実施する中で、今まで知らなかった人々との交流が生まれること＜ (3-2) 人と人との交流（ソフトダーツ）＞もある。また、今まで知らなかった人々との交流においては、ソフトダーツの場での交流を超え、ソフトダーツの場以外での交流へと拡大すること＜ (3-3) 交流の場の拡大＞もある。

(4) 楽しさについて、その楽しさを 2 つに分類することができた。その 2 つの楽しさとは、(4-1) ソフトダーツ関連の楽しさと、(4-2) ソフトダーツ周辺関連の楽しさ、である。

(5) 趣味について、ソフトダーツ実施者は、ソフトダーツを自身の趣味として考え、ソフトダーツを実施することもある。

(6) 競技について、ソフトダーツ実施者は、競技として、ソフトダーツを実施することもある。

(7) 仕事について、ソフトダーツ実施者は、仕事として、ソフトダーツを実施することもある。